

第164回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和6年 HIV感染者・エイズ患者の年間新規報告数（速報値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和6年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、664件（過去20年間で、2番目に少ない報告数）
3. 新規エイズ患者報告数は、336件（過去20年間で、5番目に少ない報告数）
4. HIV感染者とエイズ患者を合わせた新規報告数は1,000件
（過去20年間で、3番目に少ない報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが419件（全HIV感染者報告数の約63%）
 - 異性間性的接触によるものが106件（全HIV感染者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. **新規エイズ患者：**
 - 同性間性的接触によるものが173件（全エイズ患者報告数の約51%）
 - 異性間性的接触によるものが54件（全エイズ患者報告数の約16%）
 - 静注薬物によるものは1件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は108,988件
（過去20年間で、6番目に少ない件数）
2. 保健所等における相談件数は84,144件
（過去20年間で、4番目に少ない件数）

【まとめ】

1. 令和6年の新規HIV感染者報告数は、令和5年と比べおおむね横ばい（-約1%）であるが、保健所等での検査件数の伸びが鈍化していることが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 令和6年の新規エイズ患者報告数は、令和5年と比べ増加（+約15%）した。また、令和4年より2年連続で増加し、新規報告数全体に占めるエイズ患者報告数の割合は33.6%と過去20年間で最も高い割合となっている。これは、新型コロナウイルス感染症の流行等により保健所等でのHIV検査件数が減少していたことにより、エイズを発症するまで診断を受けていなかった患者が増えていることが可能性の一つとして考えられる。また、外国国籍のエイズ患者報告数が増加しており、日本国籍だけでなく、外国国籍の感染者・患者についても、早期発見と早期治療が重要である。なお、エイズ患者の増加については、ト

レンドが変わってきている可能性も疑われるため、今後の状況を注視していく必要がある。

3. 新規H I V感染者の感染経路は、性的接触によるものが約 79%（うち約 80%が同性間）、新規エイズ患者では約 68%（うち約 76%が同性間）となっている。また、新規H I V感染者・新規エイズ患者ともに、男性が全体の 9 割を超えている。
4. 保健所等におけるH I V抗体検査件数は、前年に比べおおむね横ばい（+約 3%）である。新型コロナウイルス感染症の流行以前の水準にはまだ達していないこともあり、検査件数の更なる増加が必要だと考えられる。保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、引き続き利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。
5. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における 10 万件当たりの陽性件数は令和 5 年と比べて増加した。近年と比較し件数が多いわけではないが、今後の状況を注視していく必要がある。なお、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
6. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、エイズ発症予防のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。